



NPO法人
かながわ311ネットワーク

**改めて先人に学び、子孫に伝える
～防潮堤問題から考える地域社会の行く末～
「第2回巨大防潮堤勉強会」**

8月23日(土)午後2時～5時、かながわ県民活動サポートセンターにて開催

NPO法人かながわ311ネットワーク（以後311ネット）は、東日本大震災で被災した東北各地の太平洋沿岸や河川に建設が計画されている巨大防潮堤と、コンクリート防潮堤に対する代替案を考える勉強会を8月23日(土)午後2時から5時まで、横浜市のかながわ県民サポートセンター会議室で開催します。

311ネットは昨年10月に、「東北、そして日本の沿岸を覆う～巨大防潮堤を正しく学ぼう」と題して専門家をお招きし、第1回巨大防潮堤勉強会を開催しました。東北各地で住民説明会などが開かれています。巨大防潮堤に疑問を投げ掛ける住民が多数いるにもかかわらず、行政の対応は必ずしも住民が納得するような形で進められていません。盛り土の表層をコンクリートで保護する構造の巨大防潮堤は耐用年数が50年程度とされ、いずれ全面的な造り直しが迫られることとなります。この間、維持管理費などの地元自治体の負担は大きく、地方公共団体の行財政が支障を来すと懸念もあります。この防潮堤計画は、21年前の北海道南西沖地震（1993年7月12日発生）によって地震と津波被害を受け、全島を防潮堤で囲んだ北海道・奥尻島をモデルにしているとのことですが、奥尻島ではその後、漁業に影響が出たのみならず、海岸線が見えなくなったことによる観光業への打撃により産業力が低下し、人口減少による限界集落化の恐れに加え、防潮堤によって「安全・安心」と思い込んでしまうことによる津波避難の軽視が問題になっています。

日本は、昔から地震、津波だけでなく、洪水など幾多の災害に見舞われてきました。これに対し先人たちは工夫を凝らして被害を低減させるとともに、今日まで多くの教訓を残してくれました。東日本大震災以降、先人の知恵に学ぼうという声は出ていますが、必ずしも防潮堤問題とセットになった取り組みとはなっていません。

そこで今回の勉強会では、改めて先人の知恵に学び生態系の保全と防災を両立する「移行帯／緩衝帯（バッファゾーン）」という考え方と、さらに一歩進んで、日本列島に生きてきた先人たちが守り育ててきた里山、里地、里海の連環による地域活性化と振興策を勉強したいと考えています。

防潮堤の問題は、東北地方に限ったことではありません。そして先人の知恵に学ぶことは、この神奈川の明日のためにも大切なことです。改めて認識し、皆で共有し、どうしたら子孫に伝えることができるかを共に考える機会を持ちませんか？多くの方のご参加をお待ちしています。詳細は、<http://kanagawa311.net/8256/> をご参照ください（事前申し込み要）。

■第2回巨大防潮堤勉強会「改めて先人に学び、子孫に伝える～防潮堤問題から考える地域社会の行く末」■

【講師】 新井章吾氏（株式会社海藻研究所所長）
廣瀬俊介氏（環境デザイナー、東京大空間情報科学センター協力研究員）
阿部正人氏（宮城県気仙沼市小泉海岸および津谷川の災害復旧事業を学び合う会）
「報告とまとめ」 田崎耕次（科学ジャーナリスト、NPO法人かながわ311ネットワーク監事）

【日時】8月23日(土)午後2時～午後5時

【場所】かながわ県民センター3階304会議室、神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町

【会費】500円（会場費、講師謝礼、資料代として）

【お問合せ】NPO法人かながわ311ネットワーク
担当：田崎耕次（電話045-550-3095）
info@kanagawa311.net

※ 「NPO法人かながわ311ネットワーク」とは

東日本大震災から、2年半近く過ぎました。この間、ボランティアバスに乗っての被災地支援、ホームページやFacebook、Twitterを基盤とした情報発信、被災地とかながわの人々を繋ぐイベント、講演会、物資支援など様々な活動をしてきました。私達が活動の場としてきた「かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業」は、2013年3月31日をもって事業終了しましたが、激甚被災地域の復興はまだまだ始まったばかりです。この2年半でご縁の繋がった被災地の方々と共に歩みながら、被災地の復興の一助になりたい。また明日にも来るかもしれない かながわの災害に備えたい。そのような気持ちから、「かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業」に関わってきた各チームリーダー、メンバーの有志が集まって、2013年に任意団体「かながわ311ネットワーク」を立ち上げ、10月1日NPO法人となりました。

※「かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業」とは

東日本大震災の被災者救援・復興支援のためのボランティア活動の一層の促進を図るため、2011年4月11日から2013年3月31日までの2年間、神奈川県（かながわ県民活動サポートセンター）と神奈川県社会福祉協議会、神奈川災害ボランティアネットワークの三者の協働事業として設置されました。中心となったボランティアバス事業では、事業期間中に、宮城県へボランティアバス210台参加ボランティア延べ6,819人、岩手県へボランティアバス161台参加ボランティア延べ4,514人が活動しました。また2011年7月24日から2013年3月末まで、神奈川県が岩手県遠野市に開設したボランティア活動拠点「かながわ東日本大震災ボランティアステーション遠野センター（愛称『かながわ金太郎ハウス』）」を活用し、継続的な支援を展開しました。その他、イベントや勉強会の実施、物資提供、ITを活用した情報支援、県内避難者支援など、神奈川県内でも様々な活動を行いました。

◆本件に関するご取材等のお問い合わせ先：
かながわ災害救援ボランティア活動支援室
045-312-1121 内線4140
（火・水・金13時～19時）
「NPO法人かながわ311ネットワーク」
045-550-3095 担当田崎
（月～金10時～18時）
info@kanagawa311.net